

B-8 山元町笠野地区、花釜地区 2012年11月23日(金)・24日(土)

報告者名	稲澤 努	被調査者生年	未確認(男)
調査者名	稲澤 努	被調査者属性	山元町教育委員会職員(A-2話者)
補助調査者	なし		

山元町ふれあい産業祭産業祭、町民文化祭の来場者数

11月23日に山元町役場駐車場にて行われた山元町ふれあい産業祭初日には、一日で2万4千人が来場したと新聞に発表された。ふれあい産業祭は、昨年からの震災で大きな被害を受けた山元町を支援する目的で行われている。イチゴやはらご飯など山元町内の特産品を扱っている町内の商店や団体が出店する一般出店と、北は北海道から南は宮崎県まで各地から出店された復興支援ブースとがあった。共に大変盛況で予定終了時間より2時間早く売り切れてしまったブースもあった。また、ふれあい産業祭と同時に役場に隣接する中央公民館にて開催された山元町町民文化祭は、今年で第36回を数える行事であり、市内の文化団体にとって、ここでの成果の披露は日ごろの活動のひとつの目標となっている。文化祭のなかで行われた民謡や神楽などを披露する芸能部に関しては、多い時間帯で400人くらいが会場にいたと文化協会の会長が教えてくださった。さらに、第9回やまもと食育フェアも同時に開催され、つきたての餅や鮭のつみれ汁が配布された。

仙台地域文化協会連絡協議会 伝統・伝承芸能記録保存事業 合同撮影会

山元町文化協会会長を実行委員長として、山元町民文化祭期間中に、山元町及び近隣市町の伝統・伝承保存団体による合同撮影会を実施した。参加団体は以下の通り。

11月24日

當讓稻荷大神楽保存会(山元町)

荒浜えんころ節保存会(亶理町)

花町神楽保存会(名取市)

11月25日

坂元おけさ保存会(山元町)

下増田麦搗き踊り保存会(名取市)

手倉田柵取り舞保存会(名取市)

花町神楽保存会(名取市)

なお、山元町内の団体は、前日23日の文化祭の芸能部門でも同会場で芸能を披露しているが、「昨日は娯楽、遊び、今日は本番。みな顔つきが違う(文化協会会長)」「(稲荷神楽保存会の)オールスターが揃っている(同副会長)」「今日は(神楽の)太鼓を消防団長がたたいている。あの人の太鼓はすごい(役場職員)」などといわれたように、参加メンバーの数、気合共に文化祭とは異なるものがあった。撮影の途中震度2程度の地震もあったが、舞台上で踊っている演者たちは演技に熱中しており全く気付かなかった。ただし、商工会による物産展示等も行われていた産業祭初日と比べると、見学者数は少なかった。



写真1 産業祭オープニングセレモニー



写真2 産業祭復興支援ブース



写真3 食育フェアでのもちつき



写真4 文化祭での神楽披露

撮影の目的

今回は、10団体ほど撮影することになったが、北の方は大和町で、名取、亘理、山元等はここ山元町で撮影会のお世話をすることになり、山元で開催する分は山元町民文化祭と同時期に撮影会を行うことにした。こうした保存団体は、将来一旦は活動が途切れることもあるだろう。ただし、それを後に復活させようとするときに、記録があれば後継者たちも復活させやすい。文化庁の事業でもあり、当然今回の記録は、業者で編集後文化庁に納品するが、その後各団体にも配布し、後継者育成に使ってもらおう。

保存媒体としては、過去に撮った8ミリ等も活用するが、新規撮影分については画像が劣化しないブルーレイに記録する。ブルーレイは画質は良いが、その分費用はかかる。

震災後休会中だった保存団体の動き

花釜地区の青巢稲荷で来年5月に植樹祭が予定されており、それに合わせて神楽のお披露目をするため、2、3月には練習を再開したいと考えている。用具に関しては、今年中にそろえるべく準備中で、後は発注するだけという段階になっている。12月1日に代表者が打ち合わせに役場にやってくる。代表者は若い女性なので、動き出す

と早い。その代表者の祖父はかつて神楽をやっていた方であった。記録としてDVDが1巻から12巻まであるのだが、各家のDVDは流れてしまったため、残念ながら7巻だけがなく、その部分の踊りはもうだれにもわからないということになってしまった。しかし、他の部分は残っているので、それを参考に再開できる。ただし、代表者の方も被災者であり、仕事もしており、ご自身の生活や周りの方の状況などもあるので、聞き取り等もう少し落ち着いてから、できれば練習再開後のほうがよいだろう。

河北新報（調査者注：2012年8月23日の記事）に掲載されていた「花釜音頭」に関しては、区でやっているもので、保存会とは別のものである。お天王さま祭りの笠野地区とは異なり、行政区と保存会や氏子とは別組織である。